

◇大会申し合わせ事項・確認事項◇

- 1、本大会は「国際柔道連盟試合審判規定」「少年大会特別規定」及び本日の申し合わせ事項を適用する
- 2、試合時間はすべて3分間（正味時間）
- 3、判定基準
 - 団体戦・・・「一本」「技あり」「有効」「押さえ込み5秒以上」「指導差2」とし、同点同内容の場合は代表戦を1回行う、代表は引き分けの組から審判長が選ぶ
 - 個人戦・・・「一本」「技あり」「有効」「押さえ込み5秒以上」「指導差1」として差がない場合は旗判定とします決勝戦のみゴールデンスコア3分間を適応します
(団体戦・個人戦共に指導は3回目に反則負けとなる)
- 4、試合場
 - 団体戦・個人戦ともに1試合1試合場で行う
 - (小学1・2年生個人戦は1試合場複数組も可)
- 5、決勝戦
 - 団体戦・・・一般は第1会場で行う
 - 少年は第2会場で行う
 - 決勝の審判は審判長指名の審判員で行なう
 - 個人戦・・・第1会場にて行う
 - 決勝の審判は審判長指名の審判員で行なう
- 6、反則：反則を犯した場合は厳正に対処する
- 7、危険防止
 - a) 試合中に脳震盪を起こし試合継続が危険と思われる場合は「負傷負け」を宣告する（団体戦においては、以後の試合に出場できない）
 - b) 寝技の攻防時に頸椎（または脊椎）に損傷を及ぼすような状態になった場合は「待て」として立たせる
- 8、すべての試合を3審で行う。審判員は、進行係（呼び出し、時計、掲示）を兼務し速やかに試合の進行を行う
- 9、個人戦では必ず、毎試合終了時に勝者を掲示担当者の所に行かせて所属と名前を報告するように指示する、また対戦表が正確に記入してあるかを常に確認する
- 10、会場責任者は、準決勝戦終了後ただちに入賞者の名前（漢字）、読み方を必ず本人に確認して入賞者名簿を提出する
- 11、試合の進行状況により担当の会場の試合が早く終了した場合は、まだ終了していない会場と協力して速やかな試合進行に努める